

スポーツ推進だより

平成30年3月 No.128



上段：西三河地区スポーツ推進委員実技研修会（29.11.11）

下段：大平ブロック研修会（29.11.19）

スポーツ推進だより 目次

広報部 report - 六ツ美北部学区グラウンドゴルフ大会	2
- 美合学区ドッジビー	3
大平ブロック研修会	4
全国スポーツ推進委員研究協議会	5
西三河地区スポーツ推進委員実技研修会	6
Area report（北野学区）	7
東海四県スポーツ推進委員研究大会	8

六ツ美北部学区 大蔵 正晴

朝も冷え込み始めた、平成29年11月26日、六ツ美北部小学校グラウンドにて、第25回六ツ美北部学区ファミリーグラウンドゴルフ大会が開催されました。

この大会は、小学生からお年寄りまで幅広い年齢の方が参加できる学区の大会でも人気の大会です。大会は学区6町から計15チーム総勢90名（小学生6名）の選手が参加しました。また、例年、来賓チームで、学区社教委員長、市議会議員、小学校の校長先生、各町総代の方々にも参加していただいております。



競技は、1チーム6名で構成され、イン8ホール、アウト8ホールの計16ホールで行いチーム合計打数で成績を競う団体成績と、参加選手の個人の打数で成績を競うベストスコア賞で構成されています。また、ホールインワン賞も設けられております。

競技は、8時30分スタートと10時30分スタートに分かれて、競技を開始しました。8時30分スタートでは、朝は少し冷え込みがありましたが、10時30分スタートでは、暖くなり、風もなく絶好のグラウンドゴルフ日和となりました。

競技中、選手は、役員がコースに設置した池やカラーコーン、サッカーゴールなどの障害物をいかに攻略するか悪戦苦闘されている選手もいましたが、そこはマイスティック持参のベテランの方々（特にお年寄り）、役員が設定した難コースも軽々攻略される選手もおられ、中にはホールインワンを決める選手もいました。特に盛り上がったホールは、飛び島ホールで、距離は長くありませんが、ホールインワンが狙えるコースとなっている為、皆さんホールインワン狙いでいますが、島にのらなければOBになってしまう危険性がある為ホールインワンが出た反面、OBになってしまう選手もいて、ホールインワンになるか、島にのるか、OBになるか皆さんギリギリのところでも盛り上がっていました。

大会成績ですが、優勝 土井B、準優勝 土井C、第3位 野畑Bとなりました。個人成績ですが、8時30分スタートでは、51打の下和田Aの中山祐二さん、10時30分スタートでは、56打の土井Bの安永政志さんがベストスコア賞を獲得しました。ホールインワンも8回達成され例年より多く（例年では5回ほど達成）ホールインワンが出ました。

今回参加された選手の方に今回のコースの感想をお伺いしたところ、60代男性は、「いつもやっているコースより難しかったが、これはこれで楽しかった」との感想をいただきました。小学校男子児童は、「楽しかったです。また来年も参加したいです」との感想をいただきました。

最後になりますが、大会開催に朝早くから準備、運営をしていただいた、学区役員、各町役員の方々、大変お疲れ様でした。



Report

美合学区
「ドッジビー大会」

美合学区 戸松 裕

美合学区ドッジビー（ディスクドッジ）大会は例年年末の体育館大掃除の日（平成29年度は、12月17日開催）に開催しています。対象は小学生とし、募集は主に各区地区の子供会役員などをお願いしています。人数の規定はなく、希望者だれでも参加可能にしている、今年は子供92名、付き添いの大人約25名参加いただきました。他の大人主体の行事の2～3倍です。（写真1）今年は特に寒い日に行われましたが、多くの参加者で熱気と歓声に包まれました。

開会式前にはさっそく集まった子供で練習が始まり、体育館全面覆いつくされました。



参加者(写真1)

チーム分け、対戦方法は参加人数に応じて、当日、臨機応変に決め、なるべく、多くの試合ができるように組みます。チームは子供会単位（7チーム）を基本にしますが、チーム間で人数のばらつきを小さくするために子供会世話役とも相談し人数調整しました。その結果、連合2チーム、単独5チームの計7チームとなりました。対戦方法は総当たり戦とし、計21試合を2コートで実施しました。

試合ルールは公式ルールを基本にしていますが、会場の都合でコートを狭くしているので外野からはバックラインのスローのみとし、低学年も一緒にプレーできるようにバックハンスローのみとしました。（写真2）

体育委員が審判を行いますが、小学生の機敏な動きに圧倒され、動きを追うのが大変です。数試合審判しただけで、のどがかわてしまいます。電子ホイッスルを使用しますが、会場の声援でまったく機能しません。十分な音量のものがが必要です。ラインクロスは頻繁にあるので、全部取ってはい試合している時間がほとんど無くなってしまうので、大幅にはみ出たときだけにしました。審判間でルール統一出来ていないところもあり、今後は改善していきたいです。セットごとのメンバー交代をスムーズに行うために子供会役員または体育委員をつけますが、人数が多かったり、時間がかかったりすることもあるので、できれば、ビブスなど使うとよいです。審判は大変ですが、子供たちが真剣な眼差し、歓声にパワーをもらいました。



試合の様子(写真2)

試合後は順位付けして、子供たち全員にお菓子が行き届くように景品を出しました。（写真3）

閉会式の後には、参加者全員と体育委員とで午後からのワックスがけのためにラインテープをはがしてもらいました。みんな積極的に協力いただき感謝です。



景品授与の様子(写真3)

大平ブロック研修会

生平学区 原田 隆志

11月だとは思えないような肌寒い11月19日（日曜日）生平小学校で大平ブロックスポーツ研修会を開催しました。男川・緑丘・美合・秦梨・生平の各学区よりやる気満々の方々が集まりました。

今回のメニューはファミリーバドミントンとティーボールです。参加者にそれぞれのスポーツの体験をしていただき、そのおもしろさを各学区でぜひ広めていただこう、そして岡崎市民総スポーツマンを目指す魂胆です。どう？やってみて、笑顔と歓声の研修会となりました。



ファミリーバドミントン

ファミリーバドミントン、このところ人気のスポーツです。生平学区も秋の球技大会で取り入れました。本当、ファミリーです。子供だけのチームでも大人チームと対等に試合が出来て、今までミニテニスでしたが今後はこちらでも開催になりそうです。研修会ではとりあえず基本的なルールを説明しましたが、聞くよりやった方がいいだろうということですすぐ実戦、サーブがなかなか入らない方もじきに出来るようになり、白熱したラリーも見られました。やる気満々の皆さんです。大きな歓声と笑い声の試合が出来ました。



ティーボール

ティーボールもルール説明もそこそこにすぐ実戦、ソフトボールを経験している方も多くこちらでスーパープレーが見られました。飛んでくる球を打つより止まっている球を打つほうが難しいとおっしゃる方もお見えで、この辺はゴルフと一緒になんですかね。緑丘のチームはかなり強く、打球がワンバンドで場外に消えた場面もありました。女性の方のホームランはさすがにありませんでしたが、タイムリーヒットなんかも出て、本当、女性の方でも十分楽しめる競技です。

体育館、グラウンドそれぞれで大きな歓声と笑い声が聞こえ、皆さん楽しんでいるな一の実感です。これらの競技はこの研修会を通して各学区に広まり、岡崎市の大会でも開催できたら楽しいだろうな、そんな思いで今回の研修会を終了しました。

第58回

羽根学区 関 浩

全国スポーツ推進委員研究協議会に参加して

— 11月9日(木)・10日(金) つくばカピオアリーナ —

平成29年11月9日(木)、10日(金)の二日間に亘り第58回全国スポーツ推進委員研究協議会が茨城県つくば市内つくばカピオアリーナで行われました。

全国からスポーツ推進委員4,000名が参加する大変賑やかな研究協議会となりました。岡崎市スポーツ推進委員連絡協議会から私と杉山副会長の2名で参加いたしました。開会式は午後0時30分より行われ、スポーツ庁事務官の挨拶で始まり、文部科学大臣表彰など数々の表彰及び記念講演がありました。講師の前東北楽天ゴールデンイーグルス監督大久保博元氏が「野球人生」と題して、ユーモアたっぷりに二時間講演されていました。選手、コーチ、監督時代それぞれのエピソードや、今後の子供達へのスポーツ指導の在り方、伸び盛りの少年達への指導方法、長所と短所を見抜き正しい指導者になることの大切さなどのお話を聞き、大変参考になりました。

記念講演に続きシンポジウムが行われ、テーマは『スポーツの力で楽しい未来を創る』でした。コーディネーター・立教大学コミュニティ福祉学部教授松尾哲也先生、シンポジスト・筑波大学体育系教授柳沢和雄先生、東京都健康長寿医療センター研究部長金憲経先生、筑波技術大学名誉教授及川力先生、東京学芸大学教育学部准教授佐藤善人先生の5名が共通し、スポーツの力で社会を創っていかねばいけないとおっしゃっていたのが印象的でした。現在日本の高齢化率は27%であり、やがて40%になるといわれています。このことから、地域と行政のコーディネート役として高齢化社会と関わっていくことが、スポーツ推進委員の重要な役割となります。関係者達の意見や考え、それぞれの役割などを総合的に取りまとめることが大切だと感じました。5名の先生のお話、大変参考になりました。

翌日二日目は、第3分科会場に席を移し、『誰もが一緒に楽しく～ユニバーサルなスポーツの振興を目指して～』のテーマで、コーディネーター・筑波技術大学名誉教授及川力先生が司会をされていました。広島県障がい者スポーツ指導者協議会事務局長大江健一郎氏、茨城県行方市スポーツ推進委員会副会長高野照代氏、山形県尾花沢市スポーツ推進委員会企画部長伊藤一志氏が、それぞれ「障がい者スポーツ」の歴史(リハビリからのスタート)、「障がい者スポーツ」とは、「身体が不自由でもスポーツは楽しめる」、などのお話を発表されました。共通しておっしゃっていたのは、今後、スポーツは障害、年齢、性別などによる区別をされるものではなく、障がい者が参加できるように行政と一緒に普及、促進されるようにスポーツ推進の人達にも役割を考えてくださいということでした。

終わりに

スポーツ推進委員しか参加資格がない研究協議会、とてもいい勉強会となりました。岡崎市スポーツ推進委員として、地域の活動にも役に立つ指導者を目指したいと思います。



平成29年度

広幡学区 山本 玲貴

西三河地区スポーツ推進委員実技研修会に参加して

11月11日(土) 愛知こどもの国 あさひが丘運動広場

西尾市スポーツ推進委員会のご協力のもと、11月11日(土) 愛知こどもの国・あさひが丘運動広場にて、西三河地区スポーツ推進委員実技研修会が開催されました。

岡崎市の23名を含め西三河地区のスポーツ推進委員約200名が参加し、①ノルディックウォーキング、②ナンバークップ、③エコロベースの3種目を実技体験しました。

また、西三河地区スポーツ推進委員5年・15年表彰もあわせて行われ、岡崎市からは、15年表彰には成瀬広美さん(下山)、5年表彰には山本義明さん(大門)と重森誠一さん(北野)が受賞されました。おめでとうございます！



①ノルディックウォーキング

スキーのストックに似た専用のポールを使うことで、通常のウォーキングに比べ効果的に上半身の運動を促し、首や肩の痛みやコリを解消し、首から背中にかけての柔軟性が向上するフィットネススポーツです。

しっかりとストレッチを行った後ウォーキングのレクチャーを受けます。いくつかの方法があるようですが、今回はポールを後ろに押して歩くというものでした。そしていよいよ出発です。アップダウンのある約5キロのコースを自分のペースで歩きました。みなさん思った以上に腕を使い心地よい全身運動だったようです。



②ナンバークップ

クップとは木片のことで、木の棒を下投げし5m先の1から12まで数字が書かれたクップを倒し得点を競います。1本だけ倒すとクップに書かれた数字が得点となりますが、2本以上倒すと倒した本数が得点となります。倒したクップはその場で立て直し次の人へ、得点の合計が50点ちょうどどのチームが出たらラウンド終了です。しかし、50点を超えてしまうと25点へ減点しゲームは続きます。

子どもから高齢者まで男女や障害の有無に関係なく誰でも楽しめるスポーツで、参加者の楽しそうな笑い声と笑顔が印象的でした。



③エコロベース

一見ルールはソフトボールに似ていますが、柔らかいボールと短いバットにラクロスの柄を短くしたようなミットを使い、ホームが30度ぐらいの尖った三角ベースで、守備用と打者用のベースが離れているなど安全に配慮されています。

今回は7人制を体験しました。打球が内野を超えヒットになると走らなくても進塁が確定するとか、ピッチャーの投げる位置が左右のバッターで違ったり、ストライクはキャッチャーの前の枠にバウンドさせるとか独特なルールの中、みなさん最初は戸惑いつつもすぐに慣れ、おおいに盛り上がりゲームを楽しんでいました。



立冬も過ぎ朝夕寒くなる季節でしたが、晴天で日中は暖かく愛知こどもの国のきれいな芝の公園で本当に気持ちよくリフレッシュできた研修会でした。



AREA REPORT

学区紹介

岩間 千恵

一緒にいちばん！

北野学区は岡崎市の北西にあり、自動車関連の工場が学区の面積の4分の1を占める一方、明治用水に育まれた豊かな田畑が広がり、古い歴史を物語る史跡があるのどかな地域です。

北野学区スポーツ行事

- 5月 小学校・学区合同運動会
- 6月 親睦ソフトミニバレーボール大会
- 9月 親睦スローピッチソフトボール大会
- 10月 グランドゴルフ大会
- 1月 歩け歩け大会



北野学区のスポーツ行事は、社教委員会主催のもと、各町より選出されたスポーツ委員32名で構成されるスポーツ振興会とスポーツ推進委員で、企画・運営を行っています。今年度は10月のグランドゴルフ大会が台風の為に中止となりましたが、その他の行事は予定通り開催することができ、皆、ホッとしています。

今年度最後の行事は、北野小学校から矢作川堤防に向かい、家下（やした）川沿いを日名橋まで歩いて小学校に戻る『歩け歩け大会』。季節柄、インフルエンザや体調不良の影響もあってか、参加者は少なく隊列はいつもより短めでしたが、それでも老若男女、冷たい風に負けじと歩いている姿はとても頼もしく見えました。折り返し地点の日名橋の下では、みんなでいくつかのアトラクションに挑戦。成功や失敗に一喜一憂しながらも、皆さん、笑顔で楽しまれました。

年間行事は定着し、運営のノウハウも例年の反省を生かして毎年改善、スムーズに開催できるようになっています。参加者が減少しチームが組めないときは、スポーツ委員がチームに入って一緒に参加。ここ数年においては、引退後、仲間やご近所を誘い合って率先して参加し楽しんでくれている姿を見かけます。その様子を見てみると、スポーツをみんなで楽しむという意識が、学区のひとりひとりに根付いていくことを願わずにはいられません。ひとりでスポーツを継続できる人ばかりではありません。『親睦』という言葉に込めているのは、たくさんの人に参加して楽しんでもらいたいという思いです。これからも学区の皆さんが、体も心も健康でいられるよう、スポーツを通して応援していきたいと思います。

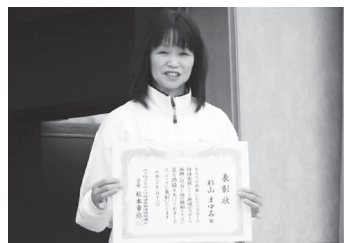


第65回 東海四県スポーツ推進委員研究大会

六ツ美北部学区 鈴木 富雄

東海四県スポーツ推進委員研究大会が平成30年2月16日(金)・17日(土)に開催されました。今年は、岐阜県下呂市にて地域における生涯スポーツ推進の実践活動について研究・協議し、スポーツ推進委員としての資質向上を図り、参加者が相互に意見交換を進める趣旨で開催されました。東海四県のスポーツ推進委員2,334名が参加した中、岡崎市は関会長以下22名で参加しました。

一日目の全大会は、下呂交流会館アクティブ「温アリーナ」で開会式、東海四県スポーツ推進委員功労者、中ブロック功労者等の表彰式、講演がありました。表彰式では、中ブロック功労者表彰として杉山副会長が披露され、東海四県スポーツ推進委員功労者表彰として私も披露して頂きました。呼称の際には推進委員の仲間から力一杯の祝福を頂きました。ありがとうございました。



表彰式に続いて行われた講演では、下呂市出身のプロダンサー大前光市さんが、「“失敗”や“変化”チャンスに変える“からだ”と“あたま”の可能性」と題してご自分の思いを語られました。大前さんは、プロダンサーとしてスタートを切った23歳の時に交通事故で左足を失い、片足でも踊り続けたい、ただその思いでヨガや武道、新体操など幅広いジャンルの動きを学ばれました。昨年には、パラスポーツ普及のための日本武道館ライブでのソロダンス披露やNHK紅白歌合戦での踊りなど、とてもアグレッシブな活動をされています。この日は紅白歌合戦でのステージを再現して頂き、躍動感溢れる講演となりました。最後に、“失敗が変化を呼び、進化する！”、変化＝進化と捉え前向きに行動しましょうと締め括られました。

二日目の研究協議は瑞穂市と養老町が発表された第1分科会に参加しました。瑞穂市のテーマは、「地域社会の変化に合わせたスポーツ推進委員のあり方」で、PDCAマネジメントサイクル手法を応用した活動及び運営方法見直し実践の内容が紹介されました。地域の特質とスポーツ推進委員の人数に沿ったやり方を工夫している部分で参考になると感じました。養老町の発表は、「いつでもどこでも1町民1スポーツ」のテーマで、多世代参加スポーツの普及実践を目指す事例として、ウォーキング事業とバルシューレというスポーツの活動内容が紹介されました。ウォーキングは養老鉄道の利用など、地域に根付いたやり方を考案していました。また、バルシューレ普及活動では、小さな子供から大人まで楽しく体を動かせるプログラムを考案して実践されていました。子供から大人まで一緒に楽しめるスポーツとなるとやり方やルールなど難しいことがたくさんあるので、スポーツの本質を見つめなおす良い機会になりました。

最後に、体育指導員、スポーツ推進委員として15年間、私の活動を見守り、指導して下さった諸先輩方や周りの仲間、家族に改めて感謝したいと思います。ありがとうございました。そして、これからも宜しくお願い致します。



発行 ● 岡崎市スポーツ推進委員連絡協議会
編集 ● 岡崎市スポーツ推進委員連絡協議会広報部
事務局 ● 岡崎市社会文化部スポーツ振興課 (TEL23-6363)
ホームページ ● <http://www.city.okazaki.lg.jp/1550/1556/281500/p021076.html>

古紙・バリエ配合再生紙使用